

「多くの感動」と「勇気」「希望」を与えてくれた

「2020 東京五輪・パラリンピック」！



山田選手（パラリンピック）銀メダル（競泳女子100m・50m背泳ぎ）に輝く  
阿賀野市スポーツ協会  
会長 井上 易喜

新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、戦後最大の経済危機、人類の危機に直面しています。

このような厳しい状況の中、賛助会員の皆様方には、毎年、貴重な浄財を賜り深く感謝いたしております。

また、市ご当局には、コロナ対策など財政事情の厳しい中、当スポーツ協会、スポーツ少年団に対し、多大な財政支援を頂き、厚くお礼を申し上げる次第であります。

このコロナウイルスは、昨年春以来、首都圏などを中心に「鎮静化」と「流行」を何回も繰り返しています。4月23日には、東京、大阪などに3回目の緊急事態宣言が発令されています。

また、当阿賀野市でも、4月中旬以降、多くの感染者が確認されたため、4月24日に予定していた「令和3年度の当スポーツ協会の総会、表彰式」は、出席者の皆さんの健康や安全面、コロナの感染防止の観点からやむなく中止とさせて頂きました。

なお、各議件につきましては、昨年同様、書面議決とさせて頂いております。

このコロナの影響は、経済活動や社会生活に深刻な影響を与えています。当スポーツ協会の各競技団体においても、大会の縮小や延期・中止などが続いています。

また、大会などを実施する場合は、今も「密閉」「密集」「密接」など、3密の回避や消毒の徹底など感染防止対策に配慮し、実施して頂いております。

● さて、新型コロナウイルスの世界的な流行で1年の延期を経て、7月23日開幕した「2020東京五輪」は8月18日、17日間にわたる熱戦の幕を閉じました。

1964年東京大会以来、57年ぶり2度目の日本での夏季五輪には、205の国、地域と難民選手団を合わせ約1万1,000人の選手が参加し、史上最多となる33競技、339種目が実施されました。

日本選手は、史上最多の583人が参加し、獲得した金メダルは、柔道(9個)・レスリング(5個)などを中心に27個、銀メダル14個、銅メダル17個、合わせて58個と史上最多のメダルを獲得しております。

なお、金メダルは過去最多だった、1964年の東京大会と2004年のアテネ大会の16個を大きく上回っています。

また、県勢の代表選手、陸上の服部選手、スケートボードの平野選手、バスケットボールの富樫選手、柔道の向選手など14名が出場し、世界中から集まったライバルと素晴らしいプレー・戦いをしています。

とくに、向選手は柔道混合団体メンバーとして、銀メダルを獲得する活躍をしております。

2020東京五輪は、コロナの影響で1年延期となった上、全国的にコロナの感染拡大が続き、殆どの会場で無観客という前例のない形で開催されました。

開催前から、延期や中止を求める厳しい声も上がっていましたが、世界各国から集まったアスリートの体力の限界に挑んだ姿は、私たちに大きな感動や勇気を与えてくれました。

● そして、依然としてコロナの感染拡大が続いている中、8月24日開幕した「第16回夏季パラリンピック東京大会」は9月5日、13日間の大会の幕を閉じました。

2度目の開催となったこの大会には、163の国と地域・難民選手団約4,400人が参加し、22競技、538種目が行われました。

日本選手団は、過去最高の254人が出場、県勢は史上最年少で出場した京ヶ瀬中学校3年生の山田美幸選手はじめ男女各2人が出場しました。

山田選手は、大会2日目の競泳女子100m背泳ぎ(運動機能障害 S2)で銀メダルを獲得し、パラリンピック日本代表史上最年少のメダリストとなりました。

そして、9月2日に行われた50m背泳ぎに出場し、100mに続き2個目の銀メダルに輝きました。

また、最終日の5日、陸上マラソン(男子上肢障害 T46)で村上市出身の永田務選手が銅メダルを獲得しています。

コロナ禍の中で、約1か月間にわたって行われた「2020東京五輪・パラリンピック大会」は、山田選手はじめ世界のトップアスリートがオリンピックという世界最高峰の場で、自分の体力の限界・人間の可能性に挑戦し、最後まで全力で戦った姿は、私たちに大きな感動と勇気・希望を与えてくれました。

● いま、少子化などにより、青少年のスポーツ離れが懸念されていますが、この「2020東京五輪・パラリンピック大会」を契機に国内そして私たちの阿賀野市でも、さらにスポーツ熱が高まってくれることを念願しております。

そして、将来、山田選手に続く「オリンピック選手」が誕生することを期待しております。

また、阿賀野市のスポーツの普及・発展のため、当スポーツ協会・スポーツ少年団もさらに努力してゆく所存でありますので、今後も関係各位の皆様からの一層のご理解、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和3年9月5日